

ほんごう

富山高等専門学校本郷キャンパス同窓会会報

No. 14 2010年(平成22年)10月発行
〒939-8630 富山市本郷町13番地
富山高等専門学校本郷キャンパス同窓会
発行責任者 石山 彰 雄
印刷 / 株式会社 宮越 印刷



商船同窓会長と米田校長



いっぺんこられまあー

ほんごう会大懇親会開催

(平成22年度総会)

場所 / 名鉄トヤマホテル

会費 / 30才未満及び女性 ¥ 3,000

30才以上の男性 ¥ 5,000

新卒者 無料

恩師の先生方にも御案内しています。

なお出席の方はメール、FAX または同封のはがきにて、10月30日までにお知らせ下さい。

11月6日(土)

PM5:00~ 講演会

米田校長・磯邊、大野、秋元 先生

PM6:00~ 懇親会(総会)

詳しくは富山高専技術室 伊藤
TEL 076-493-5409 FAX 493-5466

E-mail: ito@nc-toyama.ac.jp

または、同窓会メール

E-mail: info@tk-hongou13.net

多数の参加をお待ちしています。



ご挨拶

—スーパー高専が目指すもの—

校長 米田 政明

中秋の候、富山高専同窓会の皆様には益々御健勝にて御活躍のこととお慶び申し上げます。日頃から皆様の母校富山高専に対して特段の御支援を賜り、厚く御礼申し上げます。

昨年も本誌での御挨拶で、「昨今の気象は異常です」と書きましたが、今年も同じ話題から始めさせていただきます。今年の夏は、昨年の冷夏から一転して、猛暑でした。梅雨が明けたとたん、デジタル的に夏が来て、茹だるような暑さが始まり、9月に入ってもしばらく続きました。私の住んでおります富山市吉作は梨の栽培が盛んですが、人気の「幸水」は猛暑のせいで果実が大きくなり、出荷がお盆に間に合わないなど梨農家は大打撃だったようです。

さて、この1年の最大の出来事は昨年秋の政権交代だと思います。文字通り、天下を取った民主党は「改革」に着手しました。独立行政法人と公益法人の見直しもその1つです。国立高専機構とその傘下の国立高専51校は他の独法と趣を異にする高等教育機関ですが、見直しの例外ではなく、以来「国民目線」とか「納税者目線」による改革・改善（主として効率化）が求められています。本校も、その目線で改革・改善に取り組んで参りたいと思っています。

本校は、同窓諸兄姉御案内のように、昨年10月、富山工業高専と富山商船高専が統合し、新しい国立高専「富山高等専門学校」（スーパー高専）として生まれ変わりました。

本郷キャンパス（旧工業高専）と射水キャンパス（旧商船高専）をそのまま用いた学校運営は、両キャンパス間の距離以上に、困難を伴っていますが、統合してからの半年は種々の制度設計を行い、両キャンパスの歴史的な違いを吸収する努力をしました。御蔭様

をもちまして、本年4月に富山市芸術文化ホール（オーバードホール）で入学式を挙行し、新学科の1年生を迎えることができました。もともと、2年生から5年生までは旧課程の学生ですので、この学生たちが卒業するまで（過渡期）、教職員は「新の顔」と「旧の顔」を持つこととなります。

新富山高専は6学科で、旧の両高専合わせて8学科から、2学科減となりました。しかし、教員数は削減されていません。このことは、1教員当たりの学生数が小さくなるので、教育研究内容を高度化できる余地があり、第1にこれを目指します。学生にとって、とても有益なことと考えます。

また、これからの高専は地域社会、産業界、国際社会と無縁でいることはできません。新富山高専には「地域人材開発本部」が設置され、傘下に地域イノベーションセンター、教育技術センター、国際教育センターの3センターが置かれています。企業との共同研究、共同教育、また学生・教職員の国際性の向上のために種々の事業展開をしていきます。第2にこれを目指します。これも、卒研、特研指導、あるいは（海外を含む）インターンシップを受ける学生にとって大変有益なことと考えます。

新高専がスタートして1年、「創意・創造」、「自主・自律」、そして「共存・共生」を教育理念に掲げ、魅力ある高専に成長するよう、学生・教職員一同努力して参りますので、同窓会の皆様には引き続き御理解と御協力・御支援を賜りますよう御願い申し上げ、御挨拶とさせていただきます。

退官される先生より



時は流れて 時と知り

秋元 誠

先日、7年前に卒業したF君が訪ねてきてくれた。今は福山市に勤務、8月は多忙で休みがとれなかったとのこと。彼が大学生の時以来の来室だから、数年ぶりの再会である。

部屋に入ってきたF君の最初の発言、「先生、白髪ふえたねえ。」

私は、一瞬、絶句してしまった。思いもしなかった最初の一言だったからである。しかし、客観的には正しい一言だった。確かに、最近髪は頭髪のみならず毎日剃る髭にも白いものが確実に増えつつある。私がF君の担任であったのは10年以上も前のことだ。そのころは髪も黒々としていたであろうが.....。

私は来年3月定年をむかえる。だから今この文章を書いているわけだが、日頃はそのことを考えないようにしている。変に力んだりしたくないからだ。あくまで自分なりの自然体を保ち続けたい。

私が富山工業高等専門学校に着任したのは昭和63年4月。それ以前は県立高校に17年間勤務していた。だから高専では23年間、教員としては通算40年間勤務することになる。長いといえば長かったのだろうが、だからといって特別な感慨はないようだ。その時々で精一杯だったような気もする。「時は流れて 時と知り」(阿久悠の詞の一節)の思いである。

本校に着任したとき、私はハンドボール部の顧問を仰せつかった。競技経験もないし、もちろんルールはまったく知らない。それ以前にも運動部の顧問をしたことはほとんどなく、本校着任直前まで私は富山県高校演劇の事務局長であり、中部日本高校演劇連盟の理事だったのである。とんでもないことになってしまったと内心慌てふためいたが、どうしようもなかった。だがその年、本校ハンドボール部は熊本で行われた全国高専大会で準優勝することになる。もちろん顧問の力量はゼロ以下であり、部員たちの努力の成果だった。決勝で敗れた八代高専にはいつの日か必ず雪辱を果たしたい。気がついてみたら、私は未だにハンドボール部の顧問である。力不足は相変わらずで、不遜な思いであることは重々承知しているが、思いを果たせなかったことはやはり心残りではある。



停年を迎えて

磯邊 邦夫

平成8年4月に48歳で、縁もゆかりもない富山に来て、早くも15年が経ってしまいました。それまでは川崎製鉄、現在のJFEの技術研究所で鉄鋼製品の塑性加工に関する品質向上、コスト低減につながる研究、新プロセスの開発等を24年間行って来ましたので、学校で教鞭をとるのは初めての経験でした。

会社では、毎年のように新入社員が入って来ましたが、その指導、仕事のやり方などを教えながら感じていたことは、与えられた仕事をどのように考えて実行するかわからない新人が多かったことでした。そこで、高専では、必要最小限のことを覚え、必要なときにそれらを脳の中から引張り出し、組合せて考える習慣を学生に付けようと試み始めました。教壇では「丸暗記は定義や基礎式だけにせよ。」「問題を解くには何の定義が必要なかを考え、常に定義に戻って思考を開始せよ。」「その問題に関する図を丁寧に描いて、図を見ながら式をたてよ。」等としつこく言い始めました。5、6年してから、学生の作文集の中に、「定義が大事なんだって」と書いてあるのを見つけて、少しは私の言うことが浸透してきたなと思いました。

ところが、最近の学生は基礎式から出てきた枝葉末節の式を公式と称して丸暗記するようになってきました。そして、問題が解けないがどの公式を使えば良いのかわからないと言います。60点を取るために試験の直前に勉強をしているだけなので、当然のことながら試験が終わると忘れてしまいます。更に、式の変形をすると間違えるので、できるだけ式変形をしない方針のようです。私の試験は、従来通り考える問題が殆んどです。70分では時間が不足するようになってきたので、試験は延長戦ができるように、試験当日の最後の時間帯に試験を組んでもらっています。

このような現状にも関わらず、私も諦めずに上記の定義や図を描いて考えることを言っているのだから、自分の勉強のやり方を変えて目に見えて成長する学生が見られることはとても嬉しいことです。先日、私が5年担任をした時の卒業生が卒業後初めて来校しました。

その卒業生が、今でもこの定義の事を鮮明に覚えており、自分もそれを学生に言っているとの事でした。考えて行動できる学生が沢山育つことを千葉より祈っております。



ご挨拶

角 俊 雄

同窓会員の皆様、いかがお過ごしでしょうか。平成9年4月に本校に赴任して13年が経ちました。30年以上勤務される方が多い中では非常に短い期間ですが、私のこれまでの人生にとっては非常に重みのある期間でした。

この13年間に授業、卒研、学級担任、サッカー部顧問、折々の校務分担を担当してきました。大きな失敗をすることなく何とかやってこられたのは、ひとえに学生、現同窓会員の皆様のおかげです。本当にありがとうございました。

私にとって授業の仕事は比重が最も大きく、なかなかうまくいかず、試行錯誤の繰り返しでした。特に電子回路では基礎をを分かりやすくかつ論理を失わずに説明するという自分のイメージとなかなか合わず13年間に9種類の教科書を変更して使い、その度に講義ノートの修正や組み直しをしていました。一方、応用物理も長期間担当しましたが教科書の変更はせずに済みました。熱力学では何年目かからは板書写しから学生を開放するためにパンフレットを作成し、毎年それを改訂・訂正しながら授業を行いました。電子回路でもこれができるというのが叶わなかった夢です。

専攻科では特にソーラーエネルギー工学とその後にエネルギー論を担当したおかげで様々な分野を勉強する機会を得ました。技術資料をたくさん買い込み、その中から授業で使えるものを見つけて取り込むようにしました。その作業の中で大気中の炭酸ガスの濃

度変化から大気温度の上昇量を概算する簡単な方法に気づいて試験に出しては得意になったりしていました。

準備過程で学ぶだけでなく、授業での質問や様々な反応によって学生の皆さんに教えられることも多々ありました。赴任して間もない頃、大学院時代の先生に、教壇に立つことは教えると同時に教えられることだと感じていると伝えたところ、その気持ちを忘れずにいるようにとの励ましをもらいました。先生は昨年亡くなれましたが、何とかその励ましに背かずやって来られました。

富山工業高等専門学校は富山商船高等専門学校とともに富山高専専門学校として昨年再スタートを切りました。その準備過程で新しい学校をどうアピールするかを検討するワーキンググループのメンバーに加わる機会を得ました。そこには広告を専門とする学外の方も居られて、外に向かって宣伝する事は学校が相手に対して約束をすることなんだと改めて教えてくれました。両校のこれまでの取り組みやこれからやりたい事を様々集めた上で「夢見る力を、つくる力へ。」というあのキャッチコピーが登場しました。

新しい富山高専は社会に対して、中学生に対して、このことを約束したわけです。この約束を違えることのない学校になっていくかを同窓会員の皆さんにも見守り続けていただきたい。そして叱咤激励していただきたいと思います。そのためにも、同窓会員の皆様ますますのご健勝とご多幸をお祈り申し上げます。





ソーラーカーから 太陽光発電へ

物質化学工学科(環境材料工学科)

桑原 道夫

1991年4月、私は富山工業高等専門学校・金属工学科に赴任しました。同年秋、ソーラーカープロジェクトが立上がりしました。自動車部顧問の寺田先生を中心に、教職員・学生を動かして、ソーラーカーを自作しラリーに参加しようという計画でした。私は太陽電池と電機系を担当することになりました。

1992年5月頃から、自動車部員のほか私の卒研生も加えて製作を始めました。参考資料も少なく、ゼロからの挑戦となりました。テスト段階で初めて動いたときの興奮を今でも鮮明に憶えています。徹夜で配線していて、夜明けと共に見えた梅雨明けの強烈な朝日も印象に残っています。

車名は寺田先生にちなんでテラーリです。テラーリは、鈴鹿サーキット(WSR)と千里浜(グランドソーラーチャレンジ)ほかを走行しました。鈴鹿では、ぎりぎり予選を通過し、本戦に出場しました。残念ながらモーターのトラブルで完走できませんでした。この後改良したテラーリは千里浜ラリーで環境庁長官賞に輝きました。1993年には、秋田・大湯村でのレースに参加し、コストパフォーマンス賞を受けました。当時はまだソーラーカーの製作が珍しく、テレビや新聞で富山高専の名前が取り上げられていました。

ラリーの間、私は太陽光エネルギーを測定していました。時刻や雲の通過などでエネルギーは変化します。この値を積算して太陽電池の出力が推算でき、決河としてレース走行を支えるデータが得られます。

ソーラーカーチームに参加して太陽光発電など再生可能エネルギーに興味を持ちました。2004年夏から自宅に太陽光発電システムを設置しています。6年経過しましたが、総発電量は21,000kWhに近づき、二酸化炭素削減量は3,500kgを越えています。研究テーマも再生可能エネルギーとその利用に変えてしまいました。ソーラーカーとの出会いが私の残りの人生に重大な働きをしています。



思い出ありがとう

大野 崇

最初に任されたクラブはワングル部でした。春、5月の連休に大日岳、僧ヶ岳、毛勝山など、2泊3日程度の山歩きがありました。新入生の教育が主たる目的でした。

夏休みは部員全員が、立山や剣岳付近でボッカをやり、山男になる修行を積みました。秋は、前、後期の間の休みを利用して、後立山、穂高連山などの縦走を3泊4日程度のスケジュールでテントを担いで行っていました。新任教員の私には結構辛い山行きでしたが、指導するものと、指導される者との立場をわきまえた部員相互の態度や行動に学ぶことがたくさんあり、その後の教員生活にも大いに影響を与えました。最後の山行きは槍ヶ岳でしたが、みぞれまじりの天候で、凍りついた岩場の登はんは今思い出してもぞっとします。でも、山頂での暖かくて甘い紅茶の味は忘れることができません。

ワングル部が解散し、次はラグビー部に。「最高の、そして紳士のスポーツ」はラグビーだと、授業のなかで言っていたのが影響してか、陸上、サッカー、野球などに所属していた4、5年の学生に「ラグビー部を立ち上げるから、是非、顧問になってくれ」とせがまれ、たいした経験もないのに引き受けてしまいました。最初の3年間は全試合敗戦、また15人のメンバーも満足に揃わないこともあり、学生たちも投げ出してしまいそうでした。しかし、まず首を鍛え、単なるスキルの向上だけでなく、5年間で自分のポジションの職人になろうという合い言葉のもと、少しずつでしたが、いわゆる試合になるようになりました。最初に全国大会への出場を決めた決勝の相手は宿敵、富山商船。そのとき応援に来た先輩がポツリ、「先生、今でもあの商船のチャージは怖い」と言ったのが忘れられません。3回も出場した全国大会でしたが一勝も上げることができませんでした。しかしあの神戸のユニバーシアード競技場での電光掲示板の大きな「富山高専」の文字は今でもくっきりと脳裏に焼きついています。ラグビーというスポーツを通じて多くの若者と時間をともにできたことは私にとって生涯の大切な糧であります。

同窓会会計報告

平成21年度 決算報告

平成22年度 予算

収入の部 平成21年 4月1日～平成22年 3月31日

自平成22年 4月1日
至平成23年 3月31日

項目	決算額	摘要
繰越金	522,757	前期繰越
同窓会会費	1,620,000	会費10,000円×162名
その他	5,000	同窓会会員名簿販売 1冊
利息	10,646	普通預金、定期預金
計	2,158,403	

収入の部

項目	予算額	摘要
繰越金	470,039	
同窓会会費	1,200,000	120人×1万円
特別事業確立金からの繰入れ	1,000,000	
利息	10,000	
計	2,680,039	

支出の部

項目	決算額	摘要
総会費	171,170	11/7 開催
理事会費	69,503	6/27 開催
学生会助成費	100,000	部活動助成金(写真部、卓球部) 志峰祭パンフレット
ロボコン助成費	60,000	ロボコン活動
渉外費	30,000	「全国高専同窓会連絡会」出席
事務局運営費	100,000	事務パート代
会報発行活動費	714,946	会報誌「ほんごう」10月発行
定期協議会費	39,825	三者懇談会 8/27 開催
支部活動助成費	50,420	クラス会助成 5件(振込料含む)
祝賀壮行会費	162,750	花・会場設営・会費 新クラス理事への助成金
講演会費	0	
負担金	90,420	技術振興会会費
予備費	99,330	甲子園応援新聞広告・ホームページ更新・ ドメイン利用料・レンタルサーバー料・香典
計	1,688,364	

支出の部

項目	予算額	摘要
総会費	200,000	
理事会費	100,000	常任理事会を含む
学生会助成費	50,000	クラブ活動等助成
ロボコン助成費	60,000	2件分
渉外費	30,000	「全国高専同窓会連絡会」出席旅費
事務局費	30,000	
会報発行活動費	750,000	総会案内を含む
定期協議会費	50,000	三者懇談会費を含む
支部活動助成費	80,000	関東支部・クラス会助成
祝賀壮行会費	180,000	
講演会費	30,000	
負担金	100,000	技術振興会会費
ホームページ維持費	60,000	
会員名簿購入費	600,000	1,500円×400冊
予備費	360,039	
計	2,680,039	

収入合計 2,158,403 - 支出合計 1,688,364 = 残高 470,039 次年度に繰り越し

会則の改正

会則を以下のとおり改正する。

(名称)

第1条 本会は、富山高等専門学校本郷キャンパス同窓会と称する。
以下 従前の「富山工業高等専門学校」は全て「富山高等専門学校
本郷キャンパス」と読み替る。

(会費)

第28条

正会員、準会員及び賛助会員は次の会費を納めなければならない。

- (1) 正会員の終身会費は、1万5千円とする。
- (2) 準会員は、卒業までに前号の会費を納入する。
- (3) 第6条第5号 に該当する賛助会員の終身会費は、準会員の資格を失うまでに納入した会費とする。
- (4) 第6条第5号 に該当する賛助会員の終身会費は1万5千円とする。



定時理事会

平成22年度 富山高専同窓会事業計画案

同窓会が、会員に身近なもので、気軽に参加できる体制作りと在校生を含めた広報、P.R.活動を積極的に実施する。

又、教育後援会及び学校側と共に富山高専のより良い伝統の構築を目指して活動する。

産学連携の特徴である技術振興会のP.R.と支援。

統合後の高専の同窓会として体制を確立する。

具 体 的 事 業

1. 総会・理事会・常任理事会の更なる活性化

理事・常任理事等役員には、それぞれの立場での自覚を促すと共にきめ細かい出席要請を実施する。

今年の総会開催予定日である11月3日(文化の日)は、週半ばなので、11月6日土曜日の開催とする。

例年どおり、総会に先立ち講演会を実施する。

2. 会報の充実

会報編集委員会の充実により、より親しまれる会報を目指す。

3. クラス会・クラブOB会活動への助成

同窓会活動の活性化につながるクラス会・クラブOB会開催に対し助成する。

助成金(1万円)の拠出条件

- ① 10名以上によるクラス会・クラブOB会の開催
- ② 写真と会報用の簡単な原稿を提出
- ③ クラス代表(理事)・クラブOB会代表からの申請(年1回のみ)

4. 富山高専・教育後援会・同窓会の三者懇談会の開催

年間行事の打合せ等、情報の交換により、富山高専のより良い伝統の構築を目指して活動する。

5. 卒業・修了式後の祝賀壮行会の共催

教育後援会との共催、学校の協力により祝賀壮行会を例年どおり実施し、同窓会の卒業生に対するP.R.そして積極的な参加を訴える。

6. 在校生・学生会への積極的助成

在校生に活気を与える積極的な助成を考慮してゆく。

7. ロボットコンテストへの助成

富山高専のロボットコンテストにおける成績向上を目指して同窓会としてできる支援を考慮する。

8. 在校生への講演会の実施

卒業生の社会での活躍をじかに感じてもらい、同窓会をP.R.する。

9. 全国組織への積極的参加

「ヒューマンネットワーク高専」及び「全国高専同窓会連絡会」と連携し情報の伝達を行う。

10. 富山高専技術振興会のP.R.と支援

技術振興会の設立趣旨を会員に広くアピールすると共に同窓会員も積極的に振興会へ参加してもらう様広報する。

技術振興会の事業に対しても積極的に参加する。

11. 会員名簿発行

同 窓 会 役 員 名 簿

	回 生	氏 名
会 長	M 3	石 山 彰 雄
副 会 長	M 4	丸 山 治 久
副 会 長	M 6	布 村 敏 夫
常 任 理 事	E 5	山 田 直 樹
"	M 8	宮 越 成 幸
"	K 8	奥 野 耕 市
"	C 10	打 出 孝 彦
"	E 21	長 田 晃
"	C 11	伊 藤 通 子
"	E 15	佐 藤 圭 祐
"	K 11	井 上 誠
関 東 支 部 長	M 1	長 谷 治 男
監 事	C 3	米 谷 正
"	M 14	本 江 哲 行

会員のひろば クラス会・OB会情報

E3還暦記念（退職慰労）同窓会 @ 奥浅間温泉

富山高専を46年3月に卒業（E3）して以来40年余りも働いてきました。

今年は還暦（庚寅：カノエトラ）の年に当り、同学も次々と定年を迎えました。

これから、毎日自適、同じ会社で雇用延長、今までと違う職種と場所で働く人、そして大学に入り直して勉学に勤しむ人と多様な老後（？まだ早いか）を送りつつあります。

そこで表題のようにクラス会をやるかと近江、小川、武田先生方々もお呼びしようと計画しました。

近江先生は体調が優れないので、已む無く不参加と言うことでしたが、報告書をまとめた後に急遽お亡くなりになったと連絡がありました。（享年85）。ご冥福を祈ります。

E3同級生は現時点で

北陸16首都圏11中京3関西3海外2消息不明3物故2人です。

地区毎に忘新年会、暑いといつては暑気払い転勤等で歓送迎会。単に飲もうと年に三、四回程集っていましたが全国版として大々的にやることに、日本の隣近辺である奥浅間温泉に決めました。

小川武田両先生北陸から7人首都圏から6人香港から朝日本に到着してそのまま参加したO君と総数16人！

あれっ！！Y田君でないがけっ・・・・・・・・

エントランスにいた女将さんが素っ頓狂な声。何と山室中学校の同級生だった。半世紀近い45年ぶりの再会でした。もう一人参加したK原君は当時とは面影が劇的に変わっていた為（髪の毛が薄く）直ぐには気がつかなかったようでしたが

二人にとっては一遍に二つの同窓会を楽しめたのではなかろうか？！勿論二人ともびっくり。

何かの縁（エニシ）としか言いようがないのではと、又世間は意外に狭いとも。

三々五々集ったので早いグループは風呂に入り「零次会」となった。

宴会でも歳取った性で以前ほど飲めなくなったなあ！

一泊宴会では毎回コンパニオンを呼ぶ、呼ばない派で盛り上がるのだが事前のアンケートでは賛成1、反対1で呼ばなかったのですが、急遽「呼べ！」と慌てて手配した。

小川先生が二年生の時の写真を持ってこられ、当時の思い出に話が弾み45年以上遡った気持ちにさせられました。

部屋での二次会ではビデオ鑑賞会（名誉の為に申し添えますと怪しげな物では無くて日本山岳会富山支部会員金尾同学がヒマラヤギャジカン峰（7,038m）に登頂記録映画）

翌日は松本城美ヶ原高原善光寺と回り思い出を胸に解散となりました。

最後に皆さんこうやって元気に集れるのも後、十年位かということで毎年やることに満場一致で決まりました。

早速来年は京都、奈良方面でと計画しています。

参加者：小川、武田両先生

北陸組：上田、金尾、川原、高田、舘谷、中島潔、吉崎

首都圏：熊本、田中、安森、横山、米田、野村

海外組：香港 SANYO 大石

報告者 万年幹事 野村正信



11回 工業化学科 クラス会

昭和49年度入学の工業化学科11回生のクラス会を、8月14日に行いました。

今回連絡が取れなかったクラスメイトにも必ず連絡しようと約束しました。

C11 伊藤 通子

担任だった北辻先生と布本先生にもご出席いただき、総勢19名が集まりました。

卒業して間もない頃に一度、布本先生のご退官の7年前にも有志で一度集まりましたが、卒業以来31年ぶりに顔を合わせる面々もいて、懐かしい思い出話に花が咲きました。

世話役を買って出てくれた成川さんの「卒業して30年、浮き沈みのあった人生でしたが、15歳から20歳までの5年間を同じクラスで喜怒哀楽を共にした仲間は、30年前と同じ気持ちで会うことができうれしい」という挨拶にはジーンとききました。

次回は数年後の5月に開催しよう、



K 26 第二回 クラス会

平成21年9月20日(日)12時より、K26第二回クラス会を行いました。会場はC I Cビル15F「南欧料理リコモンテ」。卒業10年目の節目という事もあり、クラス会をする事にしました。

かりませんが、次回の皆の姿が楽しみになりました。

K26 近岡 香

子育て期に突入した人も多いので、託児の都合がつきやすいようにと考え昼間の宴会で企画してみました。あいにく先生方は都合がつかず恩師不在となりましたが、子供連れもOKにしたところ、2名の子供さんを含む計20名出席のクラス会となりました。

久しぶりに顔をあわせ日常の事や、家族の事、欠席者の近況、また高専時代の思い出話を楽しみました。仕事では部下がいたり、皆それぞれに責任のある立場になってきていて、頼もしい話し振りに、次回がいつになるか分



M 3 クラス会

8月15日、立山駅近くのホテルでM3クラス会を行いました。担任の石崎先生を含め13人も集まりました。幹事は、いつもながら石山会長。オリンピックの開催年に行っているM3のクラス会ですが、今年は還暦を迎えるということで特別に行いました。学生時代と何も変わらぬ言いたい放題の懇親会でしたが、そこには、ねたみや嫉妬やいやみもない、天真爛漫で友情にあふれた楽しい空間がありました。この集団に属していることの幸せを本当に感じました。

M3 立浪 勝



平成22年度弓道部OB射会・懇親会

今年度の弓道部OB射会・懇親会を例年同様、お盆時期の土曜日である8月14日に13時半から弓道部OB射会を富山高専弓道場にて、懇親会を同日18時半に魚民富山店にて開催しました。

例年同様、県内外、さまざまな学年から多くの参加をいただきました。

現在、弓道部は部員60名を越える学校で一番規模の大きな部活となっているようです。また、大会でも優秀な成績を収めていると聞いております。

今年は例年とは違い、射会のほうではちょっとした異変がありました。

例年でありましたら、OBと現役生が混じって行う射会の上位は、当然のことながら、現役生が独占する状況であります。ところが今年に限っては、1～3位はすべてOB（1名は専攻科生ですが・・・）が独占しました。また、ほとんどのOBは数年ぶりに引く弓を楽しく、そして自分の体力の衰えを現役のときの弓の重さと比較して確かめる良い機会となったようです。

懇親会では、卒業したばかりのOBが多く来た関係もあり、進学の話や学

校の現状（K科の募集停止や先生の移動など）や部活動について熱く語っていたのが印象的でした。

来年も執り行う予定ですので、弓道部OBの皆様はぜひ参加してください。

来年度の開催日は今年と同様にお盆時期の土曜日（平成23年8月13日）を予定しております。

幹事 K32 長木 聖和



恒例 C10 同窓会

猛暑の続く8月14日、第一ホテルにて同窓会を開きました。

当日は、夕方から豪雨になり、やっとの事でホテルにたどり着きました。

毎年お盆の休みに同窓会を開催しているのですが、一昨年は、20人、昨年は、10人で、今年は6人でした。

いつもだいたい同じメンバーなのですが、今年は、県外からの参加者の都合が悪く寂しい同窓会になりました。

年齢は、皆52、53歳ですが、今年の話は、病気の話で盛り上がりました。

というのは、同窓会万年幹事を自称するA君が、同窓会の1ヶ月前に会社で血を吐いて救急車で病院へ運ばれたとのこと。



病名は、胃潰瘍で、緊急手術をしたとの事です。

A君では、危うく死に掛けた？とのことですが、50年以上生きていると、1～2回は入院の経験あるみたいですよ。他の同窓生から、俺も、俺もと入院の話が出てきました。

実は小生も海外勤務時代 Dengue 熱で1週間入院したことがあります。

当時、まだ30歳代で、体力もありましたので、割と早く完治しましたが、死亡する人も怖い病気です。原因は、熱帯シマカ（縞々の模様がある蚊）に刺されたことです。

入院は本当に退屈なもので、小生は、1週間でしたが、テレビで訳の分からない外国の番組をずっと見ていました。病気になって初めて健康の大切さを実感しました。

さて人数は少ないながら恒例の二次会、三次会と進みました。

二次会、三次会は、毎年同じ場所で、それぞれルモンド、サルです。

今年は、早い時間17時半から同窓会が始まったので、解散は、例年午前様になるのですが、23時ごろで帰宅しました。

来年もお盆休みに同窓会を予定しています。

C10同窓生の多数の参加をお待ちしております。

C10 打出 孝彦

K37 BBQ 同窓会

平成22年8月14日にK37同窓会を行った。内容は夏ということで氷見市雨晴海岸にてBBQを開催。しかし、当日はあいにくの雨。幹事副幹事が雨男ということから不安があったが、皮肉にもその通りとなった。にも関わらず、参加者は23人と思ったより人数が集まったのでよかった。5ヶ月ぶりに再開した仲間は、全く変わってない人や明らかにやつれたような人など様々だった。みんなの顔を見ると、卒業してそんなに経っ

てないのに、もう懐かしい

と思えた。お肉も焼けて、いろいろ騒いでいると、気づけば雨は止んでいた。その後くらげに刺される者が出たり、ドタキャンする者もいたり、片付ける時に豪雨に見舞われたりと、結果的に大変な思いの方が多かった。だがそれでも、この同窓会を開くことができよかった。同時に、来年もこうして集められたらいいと思う。



K37 久保田 涉

第5回 平成14年度入学K科同窓会

日時：平成22年8月13日(金)

場所：富山駅近く パレブラン高志会館 ピアガーデン

参加者：袋布先生と同級生18名 計19名

内容：

卒業してから3年、我々の担任であった袋布先生も招待し富山市でK科同窓会を開催した。当日は大阪や豊橋など県外から遠路はるばる来てくれた人、今回初めて参加してくれた人もおり、久々の再会であったがすぐに昔ばなしに花が咲いた。大半の人が社会人であり、仕事や結婚の話などが持ち上がり自分たちも大人になったな～と実感した。一方で大学院生も就職活動や進路がひと段落したこともあり、内輪で乾杯。その後も懐かしい話は尽きず大いに盛り上がり、二次会でもバカ笑いしていた。「楽しかった」と言ってもらえて開催できて本当に良かった。次回は今冬に開催した

いと画策中。今回都合が合わなかった人にも是非ご参加いただき、楽しい時間を共有しよう。袋布先生！この場を借りまして、次回こそ二次会へのご参加を宜しくお願い申し上げます(笑)

みんな、元気でいよーぜ！

山田 健太



同窓会助成部活紹介

平成22年度 ロボコン報告

同窓会会員の皆様、ご機嫌いかがでしょうか。本校メカテック部顧問の金子(電気制御システム工学科)です。今年もNHKロボットコンテストの季節がやってきました。今年も地区大会が10月3日(日)、愛知県豊田市で開催されます。今年度の競技テーマは『激走！ロボ力車』。2足歩行ロボットが乗り物に乗った人をゴールまで運ぶ速さを競う競技となっております。ロボットには「速度」、「パワー」そして「高い操作性(制御性)」が要求されます。競技中盤ではロボットと乗り物の連結作業もあり、これら三者の共存と、競技に挑むメンバーのチームワークが勝敗の鍵となってきます。また一方で、大幅な無線規制の緩和により、無線LAN・Bluetooth・ZigBeeなどの利用も認められ、「ただのラジコン」止まりであったロボット操作・制御に新たな技術的道が拓かれたように思います。

さて製作近況であります。『二足歩行』がキーワードとなって今年で3年目、斬新さには欠けるのが我らが部の伝統(笑)と申しませうか、しかし確かな技術的経験の蓄積を背景に、着々と、粛々と製作進行中です。今年も高学年・低学年の2チーム編成でのエントリーとなっておりますが、部長河原(4M)の指揮により、例年より遥かに製作ペースは早いように思います(ただし期末試験と地区大会開催が全国最速を差し引くと時間が全然足りないのですが)。低学年チームは2年生で編成し、山車(ダシ)をモチーフにロボットをデザインしました。初めての実践的設計・製作のため、かなりの大型となっているようですが、装飾にも力を入れており、競技フィールドにお祭り気分を醸

しだしてくれることを期待してなりません。高学年チームは3年以上での編成。昨年度の地区大会デザイン賞を受賞したメンバーを主として、越中黒部天狗と人力車をモチーフにロボットをデザインしました。「経験は力」の言葉通り、機構設計・装飾は従来を超える力の入れようのようで、ロボットにノートPCを実装してBluetooth経由での通信制御という新たな試みも行っており、技術的に一皮剥けた仕上がりが期待されます。

最後になりますが、ロボコンに携わる先生方の多方面にわたる支援に感謝いたします。また同窓会からの多大な支援に対して厚く御礼申し上げます。地区予選はこれからですが、周囲の期待に応えるべく部員一同、両国国技館を目指して邁進してまいります。

平成22年9月

電気制御システム工学科 顧問 金子



卓球部近況報告

このたびは同窓会よりクラブ活動助成を頂きましてありがとうございますございました。

おかげさまで、卓球部は昨年に引き続き富山県高等学校総合体育大会卓球競技において男子団体ベスト4に入り、北信越大会に遠征いたしました。最近では、秋の富山地区予選においてベスト8に4名の本校部員が残るなど、県の卓球競技においてシードを獲得し、活躍しております。また、北陸地区高等専門学校体育大会卓球競技においても、男子団体、男子シングルス、男子ダブルスの全種目優勝という快挙を達成し、5年連続で全国大会に遠征しました。



第46回 全国高等専門学校体育大会
卓球競技 男子ダブルス



平成22年度北信越大会に出場した1～3年のレギュラー部員とコーチ

3学科になった今年度も3名の1年生部員を迎え、チーム

はますます活気に満ち溢れています。環境材料工学科4年の上野樹主将以下17名の卓球部員は、OBである金広裕(M19)コーチの指導の元、多忙な学業の合間をぬって練習に励み、秋の選手権、新人戦に備えております。今後とも、ご支援のほどお願いいたします。

顧問 津森 展子

写真部紹介

私達写真部は毎週水曜日の14:30より部活動をしています。いつもどうすれば上手く写真が撮れるのか、どうすれば自分の思うように撮れるのかななどを考えながら活動しています。

いつもテーマを決めて写真を撮っています。同じテーマでも一人ひとりがいろいろなねらいや意味を持って写真を撮って来るので似たような写真は無く、作品を全員で見ても感想を述べ合っています。先輩後輩などの区別なく、部員全員で助け合い、そして教えあって部活動を楽しんでいます。校外の活動では部員の何人かでいろんな場所に出かけています。前は夏休み中にみんなで出かけました。みんながいろいろ楽しみながらいろいろな写真が撮れたと思います。最近ではカラー印刷を中心に定期的に写真の作品展示などを行っています。おもに部室前の廊下に展示しています。その他に高専祭で作品の発表などを行っています。



写真部員



印刷中(支援金で購入したプリンタ)

昨年度の校舎改装にともない部室の場所が変わりました。部室は竹明館の生協の西側にあります。前の部室に比べて狭くなりましたが、明

るく過ごしやすい部室になりました。現在、部員の総数は17人で例年に比べて多くなっています。また、今年は女子が7人も入部して大変にぎやかになりました。このように私達写真部は写真を楽しみながら、そして一生懸命に活動しています。



登山で(小野歩)

全国大会等報告会

○第45回全国高等専門学校体育大会

○陸上 (8/11, 12 富山県総合運動公園)

男子	4×400mR	第5位	蝶	眞清
	4×100mR	出場	蝶	眞清
	400m	出場	蝶	眞清
	800m	出場	蝶	眞清
	4×100mR	出場	早風	拓哉
	走り幅跳び	出場	岡本	将征
	三段跳び	出場	岡本	将征
	110mH	出場	越野	佑太

○柔道 (8/20 アルビス小杉総合体育センター)

男子団体	第3位		
個人	男子60kg級	第3位	堀田 謙也
	男子60kg級	出場	八十島巨宏
	男子73kg級	第3位	山崎 一樹
	男子73kg級	出場	伊東 篤志
	男子90kg級	出場	北野 拓真
	男子90kg級	出場	岩本 拓朗
	男子90kg超級	出場	前田 晋吾
	男子90kg超級	出場	堀田 拓摩
	女子52kg級	第2位	家城みづき
	女子63kg級	第2位	白川 郁子

○野球 (8/20, 21 津幡運動公園、石川県立野球場)

出場

○テニス (8/20~22 石川県西部緑地公園)

個人	女子シングルス	出場	加藤 円佳
	女子ダブルス	出場	加藤 円佳、 島谷 知里

○卓球 (8/21, 22 福井県営体育館)

男子団体	出場		
個人	男子シングルス	出場	藤田 慎也
	男子ダブルス	出場	上野 樹、 大野 友也

○剣道 (8/22 福井県立武道館)

男子個人	出場	山崎元太郎
女子個人	出場	中川 絵理

○水泳 (8/22 静岡県富士水泳場)

男子	100m平泳ぎ	出場	吉田 俊介
	200m個人メドレー	出場	吉田 俊介

○ソフトテニス (8/24, 25

高岡スポーツコア高岡市テニスコート)

男子団体	出場		
個人	男子ダブルス	出場	団 恭平、 島田 周作
	女子ダブルス	出場	吉田 麻衣、 藤田光沙絵

○第34回文部科学大臣杯全国高校囲碁選手権全国大会

(7/26~28 日本棋院会館)

女子個人戦 出場 森 菜都未

○第34回全国高等学校総合文化祭

将棋部門 (8/2, 3 ホテルシーズン日南)

個人戦	出場	岩田 美緒
個人戦	出場	高村咲也子

囲碁部門 (8/4, 5 日向市文化交流センター)

個人戦 出場 森 菜都未

○第17回全国高等専門学校将棋大会

(8/19 グリーンヒルホテル神戸)

団体戦	出場	
個人戦	出場	松下 晃洋
個人戦	出場	広瀬 和磨
個人戦	出場	山原 克也
個人戦	出場	杉崎達比古
個人戦	出場	中田 直樹
女子個人戦	準優勝	高村咲也子

○第43回近畿・東海・北陸・信越地区高等専門学校弓道大会

(7/30~31日 豊田市運動公園)

女子団体の部 準優勝

最近の高専制度にまつわる状況報告

同窓会長 石山 彰 雄

昨年11月23日、独立行政法人国立高等専門学校機構の主催（たぶん主催者??）による全国高専同窓会連絡会が初めて開催された。

これは、高専機構の事業計画の一つとして「卒業生の動向を把握するとともに、卒業者のネットワーク作りとその活用を図る。」ことの一環として実施されたもので、22年度はより具体的に「各国立高等専門学校の同窓会組織等との連携状況等を把握し、各学校へ周知することで卒業生とのネットワーク作りを推進し、活用するとともに、各学校単位で構成されている同窓会同士の連携を強化するため、平成21年度に新たに立ち上げられた「全国高専同窓会連絡会」の活動を支援する。」となっており、本年度中にも第2回の「全国高専同窓会連絡会」が開催されることとなっている。

文部科学省直轄の頃には、想定できないことであり、独立行政法人として背水の陣で高専制度の改善に取り組む姿勢が大いに見受けられる。

スーパー高専としての統合計画もその一環なのだろうけれども、予算が毎年削減される状況では、かなりの困難さも伺い知れるものである。

折角、機構側から同窓会連絡会なるものを立ち上げて頂いているのだから全国55高専（統合後52高専??）は、こぞって参加して頂き、高専制度の発展に役立ちたいものである。

ところが、連絡会への参加のアンケートによれば、連絡会が何故必要なのか？現状で満足しているので参加しない。など約半数の同窓会が積極的に参加しようとしないう状況となっている。

是非、全国の同窓会が積極的に参加し、高専制度発展のための議論を重ねたいものである。

高専制度は創設当初より多難な歩みをしており、それらの改善を考えることは同窓会としては是非必要なことではないのだろうか？

それは、①名称の問題

高等専門学校ではない専科大学構想。

②長岡、豊橋両技術科学大学の大学院構想からの後退。

③大学編入学年が2年次か3年次かの混乱。

これらの問題について高専関係者が自から声を出していかない限り、改善されることはあり得ない。

現状で満足しているなどという悠長なことでは解決にはならないことを肝に銘じて欲しいものである。



富山高専・後援会・同窓会の懇談会

編集後記

第1回の卒業生が62歳ともう定年を迎える年齢になり、孫のいる方もそれなりに増えています。まだ、3世代連続、高専出身という家庭は、ありませんが、親子で高専という家庭は、私のクラスだけでも、3人。他にもかなりの人数がいます。これは、高専の良い所も欠点もよく知っている親の勧めがあつてこそだと思います。統合されて、今までの母校のイメージとは、違ってきますが、あと10年もすれば、3世代連続という家庭も現れるのでは？

高専出身の教職員の方々も、わかたけOB会という繋がりでも毎年、総会（懇親会）を開いておられます。ほんごうの地で暮らした仲間が、いつまでも交流が続くことにあらためて喜びを感じています。

（事務局担当 Mより）

同窓会ホームページを活用しよう!!

【ほんごう会ホームページの楽しみ方】

ほんごう会のホームページアドレスは

ほんごう会 <http://www.tk-hongou13.net/>

【会員専用ページ閲覧 ID とパスワード】

ユーザー ID : member

パスワード : passhongou13

なお、メールアドレスは
info@tk-hongou13.net です。

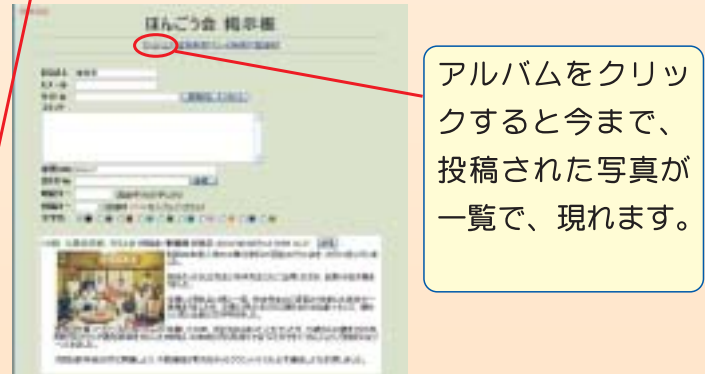


① 住所等、変更された方は、ここをクリックして連絡してください。パスワードの問い合わせも、できます。

② 懐かしい、『太刀の峯展け』のメロディーが流れます。

④ ここ、クリックして掲示板を閲覧。書き込みもお願いします。

③ 会員の広場を、クリックして、パスワード等を入力。下の画面が、現れます。

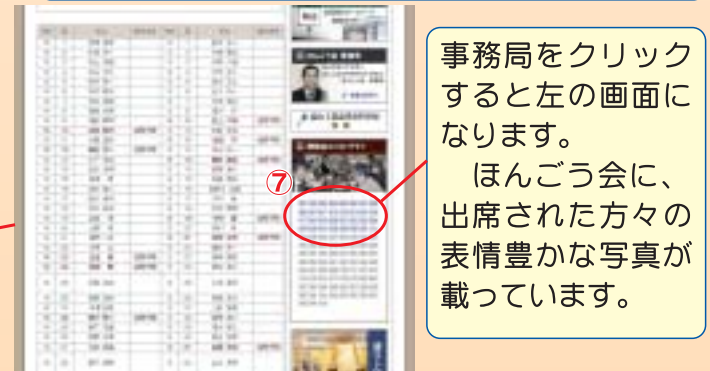


アルバムをクリックすると今まで、投稿された写真が一覧で、現れます。



⑤ 項目ごとに、懐かしい先生や旧友の写真が、載っています。順送りに見てください。

⑥ 今までの会報ほんごうのPDFデータが載っています。



事務局をクリックすると左の画面になります。
ほんごう会に、出席された方々の表情豊かな写真が載っています。

⑧ 今年度の会計、事業計画 等です。